

「阿蘇わくわく自然体験塾」

- [主催] 国立阿蘇青少年交流の家
[後援] 熊本県教育委員会 阿蘇市教育委員会 大津町教育委員会
[期間] 【第1回】平成23年7月5日(火)
【第2回】平成23年8月21日(日)
【第3回】平成23年9月21日(水)～22日(木) 1泊2日
[実施場所] 国立阿蘇青少年交流の家とその周辺
[参加者] 【第1回】生徒28名, 引率者15名, ボランティア12名
【第2回】生徒23名, 保護者25名, 引率者13名, ボランティア35名
【第3回】生徒27名, 引率者15名, ボランティア29名
[検討委員会委員]

熊本学園大学社会福祉学部社会福祉学科 准教授	相藤 絹代 氏
九州ルーテル学院大学人文学部心理臨床学科 准教授	佐々木順二 氏
熊本県教育庁高校教育課特別支援教育室 指導主事	宮本 信高 氏
熊本県立大津養護学校 校長	西川 高光 氏
熊本県立大津養護学校 教諭	岩切 昭仁 氏
熊本県立大津養護学校 教諭	福田 洋二 氏
熊本県立大津養護学校 養護教諭	有働美保子 氏
熊本県立大津養護学校 養護教諭	種子永香織 氏

1 趣 旨

阿蘇の大自然の中で自然体験や社会体験, 交流体験等をとおして, 特別な支援を要する児童・生徒の豊かな心を育成する。

2 目 標

- (1) 一人一人が自分の体力や技能等に応じた活動を意欲的に取り組もうとする力を育てる。
- (2) 自主的に活動しようとする態度を育てる。
- (3) 仲間と協力する心・人や自然に対する思いやりの心を育てる。

3 事業展開

(1) 研修プログラム

第1回目					10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00									
	7月5日(火)				大津養護学校出発 移動	出会いの集い	ウォークラリー 施設探検	昼食	別れの集い	交流の家出発 移動	大津養護学校到着								
第2回目					10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00								
	8月21日(日)				大津養護学校出発 移動	出会いの集い	バター作り体験	昼食	フィールドビンゴ 阿蘇の水基巡り	別れの集い	阿蘇神社出発 移動	大津養護学校到着							
第3回目					10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00	18:00	19:00	20:00	21:00	22:00		
	9月21日(水)				大津養護学校出発 移動	出会いの集い	オリエンテーション レクリエーション	昼食	ASOびんパーク		ものづくり体験	休憩	修学旅行について 知っておこう	準備・移動	夕食	入浴準備等	入浴	就寝準備	就寝
	9月22日(木)	7:00	8:00	9:00	10:00	11:00	12:00												
	起床・洗面等	朝の集い	朝食	宿舎清掃 退所点検	自然散策	お別れセミナー	交流の家出発 移動	大津養護学校到着											

(2) 目標達成のための手立て

① 検討委員会の設置

本事業を円滑に運営し、事業の充実を図るため、特別支援教育の専門家や連携学校の先生方を招聘し、検討委員会を組織した。

回	開催期日	主 な 内 容
1	5月27日	「阿蘇わくわく自然体験塾」プログラム開発・評価方法等について
2	12月16日	事業報告、アンケート結果等による事業の成果と課題、次年度にむけて

② 生徒の個性を生かし、安全面に配慮したプログラムの開発

ア 生徒一人一人の体力や技能等に応じた活動

選択コースでの自然散策やものづくり体験を実施した。事前に、養護学校の先生と生徒と相談し、活動を決め、当日は、ボランティアの支援を得ながら、意欲的に取り組んでいた。自然物を使ったものづくり体験では、作品をつくり上げた達成感を十分味わうことができていた。

イ 安全面に配慮した活動

水基巡りやウォークラリーでの危険箇所にボランティアを配置したり、ものづくり等では生徒一人にボランティア一人体制にしたりするなど、安全面に特に配慮した体制づくりに努めた。



③ 養護学校・大学・関係機関等と連携した協力体制の確立

ア プログラム開発にむけて

検討委員の方々の御指導・御助言をいただきながら、充実したプログラムの開発に努めた。特に、生徒の実態を十分理解している養護学校の先生方とは、移動や活動時間、配慮事項等、細かい打合せを行った。

イ ボランティアの確保と質の向上

熊本学園大学相藤先生と九州ルーテル学院大学佐々木先生のご協力により、多くのボランティアを確保できた。そのため、養護学校の生徒が安心して活動していた。また、養護学校の先生方に来ていただいたの事前研修会を実施し、ボランティアの質の向上に努めることができた。

ウ 事業の成果と課題の把握

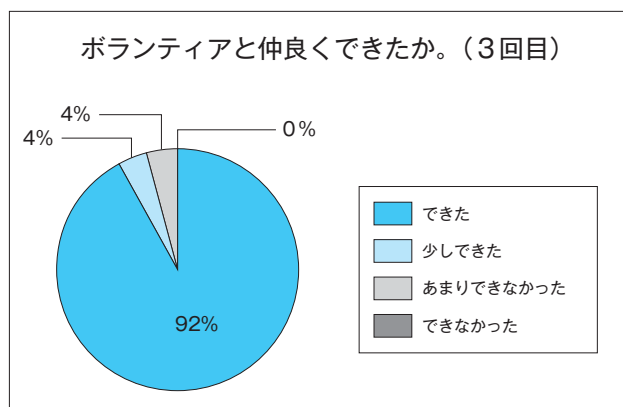
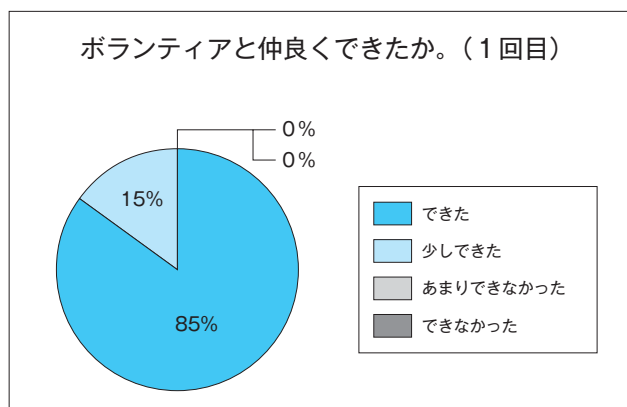
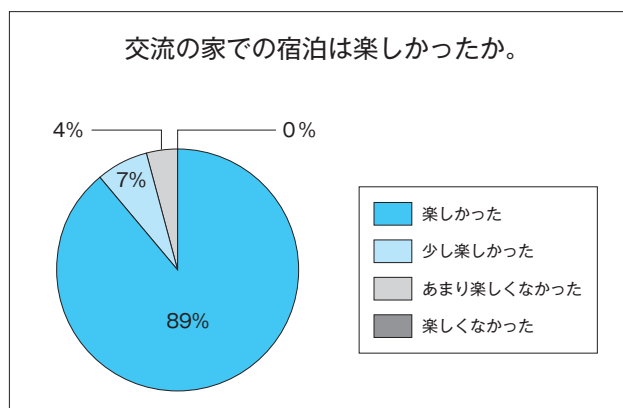
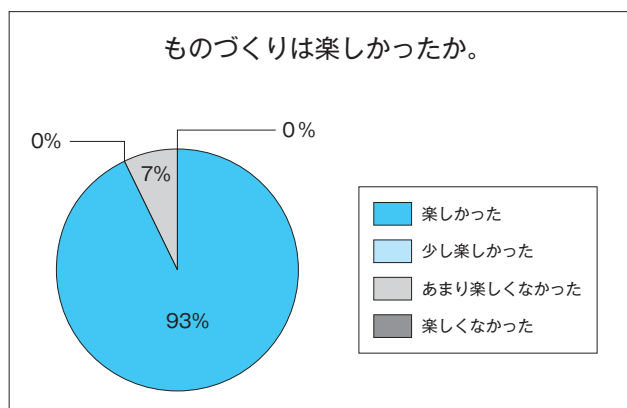
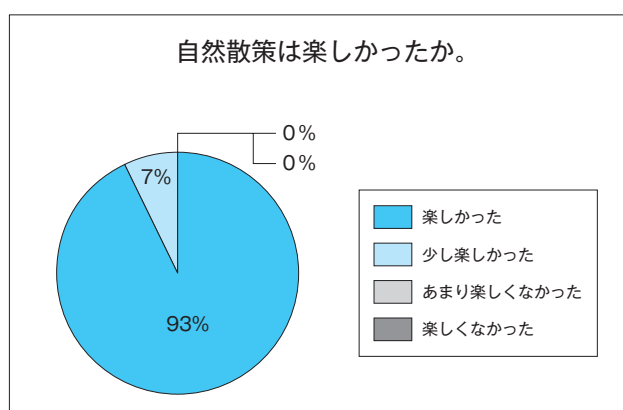
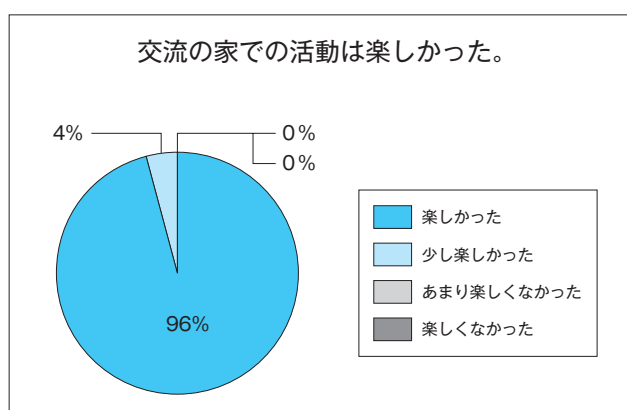
参加者やボランティア等の感想や変容等を知るため、アンケートを実施した。九州ルーテル学院大学佐々木先生の専門的なアンケート分析により、事業の成果や課題がよく把握でき、来年度にむけての方向性が見えてきた。



4 結果

アンケートの結果は次のとおりである。

〈生徒へのアンケート〉



【生徒の声】

- ボランティアと一緒に行動したり、食事をしたりして楽しかった。たくさん遊んでくれてありがとうございました。
- 作品をおうちに飾っています。
- 車いすを押してもらったり、持ち上げてくれたりありがとうございました。うれしかったです。
- 学校にも遊びに来てください。



【保護者の声】

- ボランティアの学生さんが、いろいろな話をしてくれたり、手をつないだりして優しく接してくれていた。
- 途中、雨が降り残念でしたが、バター作り体験や阿蘇神社での活動など、ボランティアの方々の手助けがありよかった。
- レストランの利用は2回目となったので、食事のときはスムーズに行動ができていたので、安心した。
- 阿蘇の自然を体験できる活動がもっとあればいいと思う。(りんご狩り・バーベキュー・JRの利用など)
- 雨天のため、阿蘇神社でのボランティアとの交流があまりできなかった。

【引率教員の声】

- ものづくり体験において、阿蘇の自然物を利用してオリジナルな作品をつくり上げることができ、生徒に成就感を味わわせることができた。
- 一人の生徒に一人のボランティアの体制なので、深い係わりができ、とても親近感が感じているようだった。
- ボランティアからの手書きのメッセージに、生徒がとても感動し、うれしがっていた。
- 初めての宿泊を伴う学習で、生徒の入浴や就寝などの様子を知ることができた。
- ゆとりあるスケジュールは大事だが、間のもたない生徒もいた。

【ボランティアの声】

- 積極的にかかわることができた。生徒の好きな話題を話すと、生徒の目がキラキラしていた。
- 引率の先生方のアドバイスを参考にしながら、生徒たちと接することができた。
- 最後の見送りのときは、ずっと手を振ってくれて感動した。
- 一日中、一緒に行動して、その子の特徴を知ることができ、ものづくりや遊びなど、とても楽しくできた。
- 生徒が一人でできることも、すぐ手伝ってしまったような気がする。

5 成果と課題

(1) 成 果

- ① この事業では、普段学校で指導しておられる先生方のほかに、ボランティアや交流の家の職員といった多くの人とのかかわり、広い人間関係づくりができた。更に、1泊2日の宿泊体験でのかかわりや、一部ではあったが3回シリーズの継続的なかかわりができ、人間関係の深まりができていた。生徒一人一人のコミュニケーション能力の向上が見られた。
- ② 個の体力や技能等に応じた選択コースでの自然散策やものづくり体験など、生徒の実態に応じたプログラムの開発を行ったことにより、自主的に意欲的に取り組む姿が見られた。
- ③ プログラム開発やボランティアの人数確保、質の向上に向けて、検討委員の先生方のご意見をいただきながら、事業準備を進めることによって、細かいところまでのプログラムが作成できた。今後も、更なる連携を深めながら、サポート体制の充実に努めていきたい。

(2) 課 題

- ① 一人一人の実態を十分に把握し、それに応じた活動の実施や、そして安全管理体制を更に充実させ、阿蘇の自然をもっと生かした活動を実施できるよう、より効果的なプログラムの開発に努める。
- ② 特別な支援を要する児童・生徒の豊かな心の育成のために、関係学校・大学・教育委員会などとの連携を更に取り合っていきたい。そして事業後も、生徒とボランティアとのかかわりが継続的なものになるようにしていきたい。